

I. 歓迎とレビュー

- A. おはよう。出席しているすべてのお母さんたち、母の日おめでとう。あなたの日が主と家族の愛によって祝福されることを祈っている。
1. 母の日が、ある人々にとって多くの複雑な感情や思いで満たされる日であることを知っている。この日が何をもたらすにせよ、私の願いは、この場所に集ったあなたが、主から恵みを与えられるようにすることだ。
  2. *新顔やネット配信者を歓迎する。抑止力*
- B. 今朝は、主にある兄弟、トレバー・スウェルのために祈る特権がある。一ヶ月ほど前、ティファニーと子供たちのために祈ったことを覚えているだろうか。トレバーは岩国を出発し、アメリカで家族と再会する予定なので、今日が私たちと過ごす最後の日曜日になる。
1. もしトレバーが今いる場所に立っていて、教会の指導者たちが彼に手を置いて祈ってくれるなら、それは素晴らしいことだ。
  2. トレバーはパーカッションリストとして、私たちのワーシップ・ミニストリーに忠実に仕えて。アメリカに戻り、新たな一歩を踏み出すトレバーとその家族に、神が素晴らしいことを待ち受けていると信じている。祈ろう。
- C. 人々が戻ってくるのを見計らって、小学生の子供たちも日曜学校の教室に解散させよう。
1. *(2<sup>nd</sup> 礼拝; 聖書英語のクラスは忘れずに解散する)*
- D. 先週の日曜日、君たちが主とともに時間を過ごせたことを願っている。
1. 基地に近いから、みんな歩いて来たり、自転車で来たりできるのはありがたいことなんだけど、1年のうち1日はそうもいかないんだ。基地のフレンドシップ・デーと基地に通じる道路が閉鎖されるため、教会に来るのは不可能に近い。
  2. また、沖縄の姉妹教会から礼拝の模様をストリーミング配信している教会もある。カルバリーチャペル沖縄では、リック牧師が黙示録2章から素晴らしいメッセージを伝えた。もし見逃したなら、彼らのウェブサイトからアクセスできる。
- E. 今日からまたヘブル書の勉強に戻り、ヘブル人への手紙11章「信仰の殿堂」を進んでいく。
1. 私たちは、アベル、エノク、ノア、サラ、アブラハム、そしてイサク、ヤコブ、ヨセフといった家長たちの信仰を見てきた。
  2. 神に選ばれた民の指導者であり、預言者であった。神によって奇跡を起こすために用いられた人であり、神の民を束縛から解放し、約束の地へと導いた人である。
  3. その柔和さと神と神の民に対する心で知られる人物である。歴史家であり、著述家であり、私たちのために聖書の最初の5冊を記録した人物である。今日はモーセと彼の信仰生活について見てみよう。

4. モーセは非常に魅力的で奇跡的な生涯を送ったが、今日、私が望むのは、彼の信仰生活からいくつかのことを汲み取り、私たち自身の信仰生活に応用することである。

F. 今朝のテキストはヘブル人への手紙11章23節から29節である。そして、私たちの学びのタイトルは「信仰生活の選択」である。

1. 今朝、聖書を持っていることを願っている。もし持っていないなら、周りの椅子の下にある聖書を借りてくることを勧める。
2. ヘブル人への手紙第11章を読んだら、もし可能なら、主と主の御言葉に敬意を表して立ち上がっていただきたい。
3. NKJVの聖書から読むつもりだが、もし他の訳から読んでいるのであれば、それに従って最善を尽くしてほしい。ヘブル人への手紙の著者は、23節からモーセの生涯を取り上げながら、この「信仰の殿堂」を私たちに案内し続けている。著者はこう書いている。

II. イントロ

- A. 人生には様々な選択がある。簡単な選択もある。妻がチョコレートチップクッキーを作るべきかどうか尋ねると、答えはいつも「イエス」だ。そう簡単ではない選択もある。妻がシナモンロールがいいかキャラットケーキがいいか聞いてきたとき、私はただ「イエス」と答えたいのだが、それはうまくいかない。
- B. モーセが生きた信仰生活を見ていく中で、私たちはモーセがいくつかの選択に注目する。
- C. そして願わくば、彼の生涯を見ることによって、私たちが人生で同じような状況に直面したとき、モーセと同じような選択をするよう挑まれ、励まされることであろう。
- D. モーセの物語は、モーセ自身ではなく、実は彼の両親から始まる。冒頭の聖句をもう一度見て、モーセの両親から、信仰生活を選択することについて私たちに何を教えてくれるのかを探ってみよう。

III. ヘブル11:23; 信仰によって、モーセの両親は次のことを選んだ。

- A. モーセの生涯に関する聖書の物語は、出エジプト記の冒頭にある。
1. 前回の学びでは、ヨセフの生涯と、彼がイスラエルの子どもたちを率いてエジプトに渡り、この地域一帯を大飢饉を乗り切ったことを見てきた。
  2. エジプトにいたイスラエルの子供たちは、ヨセフと彼のリーダーシップの下で繁栄した。しかし、ヨセフは亡くなる前に、エジプトは自分たちの故郷ではないことを人々に思い出させ、エジプトを出た後、自分の骨を約束の地によろ求めた。

3. 出エジプト記1章には、ヨセフのことも、ヨセフがエジプト王国にもたらした偉大な貢献のことも知らない新しいエジプトに現れたと書かれている。(出エジプト記1:8)。
  4. この新しい王は、イスラエルの子供たちが自分の好みよりも増えすぎたため、イスラエルの子供たちが反乱を起こしたり、エジプトの敵に加担したりすることを恐れていた。
  5. そうして、イスラエルの子らに抜け目なく対処し、多くの重荷を負わせて苦しみ、彼らの上に召使を置き、エジプト王国の中で奴隷に、過酷な労働を強いるようにした。
  6. しかし、彼らがイスラエルの子らを苦しめれば苦しめるほど、彼らはますます増えていった。そこで王は最終的に、生まれたばかりのユダヤ人の男子はすべて川に投げ入れて溺れさせろが、娘たちは生かしておくことを認めるという法律を制定することにした。(出1:22)。
- B. ヘブル人への手紙の著者は、このような状況に基づいて、モーセの両親、すなわちアムラムとヨケベドという夫婦の信仰を取り上げたのである。
1. ヨヘベドはモーセを産んだが、パロから受け継いだ掟に従い、息子を川に投げ込む代わりに、その恐ろしい運命から息子を救い、3ヶ月間匿った。
    - a. 聖書によれば、モーセの両親は、モーセが美しい子供であるのを見て、そうしたという。
    - b. どの親も自分の子供は美しいと思っているのではないだろうか。たとえ、その子がだらしなく、血まみれで、とんがり頭で、耳が折れ曲がっていて、エイリアンのような大きな目で、黄疸のある肌をしていたとしても関係ない。どの親も自分の子供は美しいと思う。そして当然そう思う。
    - c. 子どもは主からの贈り物であり、遺産である。子宮の中で恐ろしくも素晴らしく造られ、子宮から生まれると、神は両親の心に驚くべきことをなされる。そして彼らはほれほれする。一目惚れだ。
  2. アムラムとヨケベドの間にモーセが生まれた時、このようなことが起こった。パロが何と言おうと、*私たちはこの子を川には流さない。パロが何と言おうと、私たちはそんなことはしない。*"と言った。
    - a. 私たちの信仰生活において、不義の指導者たちによって制定された不当な法律に従わなければならない時が来るかもしれない。
    - b. 聖書には、私たちは私たちが支配する権力者に従わなければならないと書かれている。ローマ人への手紙13章にも、テトス3章にも、ペテロ2章にもそう書かれている。
    - c. しかし聖書はまた、私たちが人ではなく神に従うべきことも示している。使徒言行録には、エルサレムの神殿でのペテロと使徒行動が書かれている。
    - d. 彼らは前日、神殿でイエスのことを人々に教えた罪で逮捕され、牢に入れられた。

- e. しかし、神は奇跡的に彼らを牢から解放し、主の天使は彼らに、"行って、神殿に立ち、この命の言葉をすべて人々に語りなさい"と告げた。(使徒5:20)。
  - f. 彼らが神殿で教えているのを見た宗教当局は、再び彼らを抑え、こう言って尋問した。(使徒5:28a)
  - g. それに対してペテロと他の使徒たちは答えて言った：「私たちは人よりも神に従うべきである。(使徒5:29)。
3. アムラムとヨケベドは、神が自分たちに与えてくださったこの子供が、神からの尊い贈り物であり、養育と世話を必要とする尊い命であることを知っていた。
  4. そして、信仰によって、彼らはモーセを3ヶ月間当局から匿い、パロの掟を無視して、主と彼らへの主の賜物を称え、讃えるために、モーセを匿った。
- C. ここでは特に言及されていないが、モーセの両親の信仰行為はこれだけではなかった。3ヶ月が過ぎ、もはや息子を当局から隠すことができなくなった後、彼らは親として考え得る最も困難なことのひとつを余儀なくされた。
1. 聖書によれば、彼らは灌木で小さな箱舟を作り、アスファルトとピッチを塗り、その中にかわいい子供を入れ、川のほとりの葦の中に置いた。(出エジプト2:3)。
  2. 彼らの人生には、息子を手放し、完全に主の御手に委ねるべき時が来た。
  3. これは、親にとって最も困難なことのひとつで、子供を手放し、全知全能の神に委ね、神が彼らの人生に計画を持っておられ、神がその意志が実現するように見守ってくださることを信じるのだ。
  4. もちろん、アムラムとヨヘベドは、私たちの多くが直面することになる年齢よりもはるかに早く、このようなことをしなければならなかった。しかし、遅かれ早かれ、ほとんどの親は同じようなことをしなければならぬ。子供を手放し、危険な世界、ワニやその他さまざまな危険に満ちた世界に放し、神が働いてくださること、神が指示し、必要な場所に導いてくださることを信じるのだ。
- D. 信仰によって、**モーセの両親は**パロの律法を無視することを**選び**、その子を主の手に委ねた。
1. 親として、私たちに子供を守り、教え、型にはめ、形成する責任がある。しかし、最終的には彼らを手放し、主の御手に委ねなければならない。
  2. アムラムとヨヘベドの信仰に触発され、励まされることができるようになる。彼らのように、子供を守るだけでなく、時が来れば主の御手に委ねることを学ぶ親となることができるように。
- E. では、モーセの生涯から他に何が読み取れるかを見よう。節を読む

IV. ヘブル11:24;

- A. もしあなたがモーセのことをよく知らないなら、彼の両親が彼を川辺の箱舟に入れた後に何が起こったかを説明しよう。
1. アムラムとヨケベドが手を放すと、モーセの姉ミリアムは川に浮かぶ箱舟から目を離さなかった。
  2. パロの娘（歴史によれば、その娘には子供がいなかった）は、水浴びをするために川辺に下りてきて、川に浮かぶ箱舟を見つけた。
  3. 彼女は召使いたちに箱舟を取りに行くように言い、召使いたちが箱舟を持ってくると、彼女は箱舟を開け、そこに赤ん坊のモーセがいた。聖句によれば、彼女はモーセを憐れみ、ヘブル人の子供の一人であると認めた。(出エジプト2:6)。
  4. ミリアムは、前でこのような展開が繰り上げられるのを見て、パロの娘に駆け寄り、こう言った。"私が行って、あなたのためにヘブライ人の女たちから看護婦を呼び寄せましょうか。(出2:7)"
  5. ファラオの娘は同意し、ミリアムは赤ん坊の弟を母親の腕の中に連れ戻すことができた。ヨケベドは自由に授乳し、息子の世話をすることができ、さらにはパロの娘への奉仕のために支えられた。まさに奇跡である。
  6. やがて子供は乳離れし、ファラオの娘に返され、モーセは宮殿で成長し、ファラオの大家族の一員として暮らした。彼は教育を受け、養われる最高の機会を与えられた。パロの娘の息子として、パロの孫として、成功するためのあらゆる機会を与えられた。
- B. しかし、24節を読むと、モーセが成人したとき、誰もだにしなかったことをした。彼はパロの娘の子と呼ばれることを拒んだ。
1. 使徒言行録7章で、ステファノがサンヒドリンの一員である評議会に向かって演説しているとき、彼はヘブライ人についての歴史の教訓を述べ、そこでモーセがこの称号を拒否して兄弟たちと交わることを決意したのは40歳のときであったと語っている。(使徒7:23)。
  2. 40歳のモーセは、心の望むものを何でも手に入れることができた。
  3. しかしモーセは、パロの娘の息子として権力、名声、栄華を求める代わりに、パロとその一族と同一視されることを拒否し、すべてを放棄することを選んだ。
  4. これは非常に大きな信仰の一歩だった。主とその民に同化するために、ために持っていたすべてを放棄し、すべてをあきらめたのだ。
  5. 主イエス・キリストを信じる者として、キリストにおける私たちのアイデンティティは非常に貴重なものである。しばしば人々は、キリストにおける私たちのアイデンティティの重要性を理解していない。人々は、自分の仕事やキャリア、言ってみれば自分の任務が自分のアイデンティティだと勘違いしやすい。
  6. 人は自分のアイデンティティを自分の任務に結びつけていると誤解している。キリストにある私たちの変わらないが、任務や仕事は変わる。

7. 私たちは何よりもまず神の子であり、これは決して変わることはない。

8. 今日、あなたは海兵隊員であり、船員であり、母親であり、妻であり、学生あるかもしれない。しかし、それらはすべて変化する。
- a. 引退したり、活動義務がなくなったらどうする？ 子供たちがみんな家を出たらどうなるか？ 配偶者がガンや不慮の事故で死んだらどう？ そういうこともある。私は今週、夫と父親を亡くした家族についてのメールを受け取ったばかりだ。奥さんには3人の子供が残され、今は一人で面倒を見ている。
  - b. 自分のアイデンティティを、自分が何者であるかということではなく、自分が何をするかということで包んでしまっているとしたら、ある日、自分のすることが変わったときに、自分を見失い、混乱していることに気づくだろう。自分の人生をどうしたらいいのかわからなくなり、迷い、混乱し、自分の人生はいったい何なのだろうと思うだろう。自分のアイデンティティと価値を常に見出してきただから、それが変われば途方に暮れることになる。
9. 今日、私は皆さんに、キリストにある自分のアイデンティティを知り、理解することを勧めたい。あなたは神の子であり、それは決して変わることはない。
- a. あなたは主に愛されており、主はあなたの人生に計画と目的を持っておられる。たとえ季節が移り変わろうとも、人生が変わろうとも、主の計画と目的は継続し、主とともにいるために主があなたを家に呼び戻すその日まで、継続し続けるだ。

C. 信仰によって、モーセはパロの娘の息子と呼ばれることを拒否することを選んだ。

1. 私たちも神の子であることを正しく認識し、自分が何をしているかと自分が何者であるかを混同しないようになる。あなたは海兵隊員や船員、母親や父親、学生、教師、請負業者以上の存在である。

D. 続けて25節を見てみよう。

V. ヘブル11:25;

A. 信仰によって、モーセは罪の一時の快楽ではなく、神の民とともに苦難を受けることを選んだ。

1. パロの娘の息子という称号を拒否し、ヘブル人と同化するという彼の決断の一部には、イスラエルの他の子供たちが受けたのと同じ苦難を受けると同じ選択も含まれていた。
2. 彼は、ただ豊かで繁栄した生活を捨てて、いくらか普通の生活を送ることを選んだのではない。パロの娘の息子と呼ばれることを拒むという選択は、彼がアンタッチャブルな存在から苦難に直面する存在になることを意味した。
3. 彼は他のヘブル人が経験していたのと同じ虐待と苦難を歓迎していたのだ。
4. しかしモーセは、パロの娘の息子として得た快楽について、非常に重要なことを理解していた。彼はそれが一時的なものでしかないと知っていた。

B. 私たちの魂の敵は、罪を多少魅力的に見せるためにうまく絵を描いている。

1. しかし問題の真実は、罪は破滅と死をもたらすだけだということだ。ローマ6:23は、罪の報酬は死であると述べている。(ローマ6:23a)
2. モーセは選択をれた。罪の一時の快楽を求めて生き続けるのか、それともそれらを捨てて神のために生きるのか。
3. そして、モーセに選択権があったように、私たちにも選択権がある。誰も私たちに罪を犯させない。誰も私たちに罪を犯させない。私たちには選択の余地がある。
  - a. 列王記上1章には、預言者エリヤと、カルメル山の頂上でのバアルの預言者450人、アシエラの預言者400人との驚くべき出会いが書かれている。エリヤは、預言者たち全員とイスラエルの子供たち全員と共に、カルメル山の頂上に集められた。
    - i. エリヤは言った、「あなたがたは、いつまで二つの意見の間で迷っているのか。主が神であるなら、主に従い、バアルであるなら、バアルに従え。」と言った。(列王記上18:21a)
  - b. ヨシュア記では、ヨシュアもイスラエルの子らを集め、彼らに選択の必要性を宣言している。
    - i. 川を渡り、約束の入ろうとするとき、彼は彼らにこう勧めた。『あなたがたの先祖たちが川の向こう岸で仕えていた神々か、それとも、あなたがたの住んでいるアモリ人の神々か、誰に仕えるかを、今日、自分たちで選びなさい。しかし、わたしとわたしの家については、主に仕える。』(ヨシュア記24:15b)
- C. モーセでさえ、イスラエルの子供たちを呼び集め、同じ決断をするよう呼びかけた。
  - i. わたしは今日、天と地を、あなたがたに対する証人と呼ぶ。わたしは、あなたがたの前に生と死、祝福とのろいを置いた。
4. 私たちは皆、同じしなければならない。主に従うこと、罪から立ち返ること、死よりも生を選ぶことを選ばなければならない。

C. しかし、ここで警告しておかなければならないことが。もしあなたが、この世と罪の過ぎ去る楽しみから離れ、代わりに主に従い、神的生活を送ることを選ぶなら、迫害を経験するだろう。

1. モーセが罪の一時の快楽を味わうよりも、苦しみを選んだように、主のために生きるという私たちの選択もまた、苦難をもたらす。
2. 2テモテ3:12には、「キリスト・イエスにあって神々しく生きようと願う者は皆、迫害を受ける」とある。神的に生きることをうまくやる必要もない。ただ神的に生きたいと願うだけで、聖書は苦難を受けると約束している。(2テモテ3:12)

3. 敵はあなたに向かってくる。そして、迫害や試練や苦難を経験するだろう。敵は、あなたにあきらめさせ、タオルを投げさせ、主のために生きることが割に合わないと思わせようとする。
4. しかし、私はその価値があることをお伝えしたい。敵が私たちに考えさせたくないことは、この地上での人生は短く、一時的なものだということだ。私たちは今日ここにおいて、明日いなくなる。人生は蒸気にすぎない。(ヤハ.4:14b)
5. 現世で少し苦しんでから、天国で主とともに比類なき喜びと満足の永遠を楽しむか、あるいは、今、罪の一時の快楽を選んでから、神から離れた地獄で痛みと苦しみと終わりのない苦しみの永遠を味わうか。
6. 我々には選択肢がある。皆さんには賢明な選択をしてほしい。モーセが述べたように、生命を選び、祝福を選び、永遠を念頭に置いて選んでほしい。

D. そして、それが次の節につながる。26節を見てみよう。

VI. ヘブル11:26;

A. 神の民と同一視することを選択することによって、モーセは神に信仰を置く人々、そしていつかキリストに信仰を置くすべての人々と同一視していたのだ。

1. 26節によれば、彼がパロの娘の息子という称号を拒否することを選んだのは、キリストの非難をエジプトのすべての宝よりも大きな富とみなしたからである。
2. この"尊ぶ"という言葉は、会計用語である。彼はすべてを数え、測り、キリストの非難はエジプトが提供するすべての宝よりも価値があることを見出した。
3. 聖書に登場するエジプトは、しばしばこの世を象徴している。モーセは、自分の選択肢を検討し、すべてをし、キリストの非難、神的な望む者として遭遇するであろう迫害は、世が彼に提供するすべてのものはるかに凌駕するという結論に達した。

B. パウロも自分の同じような計算をした。彼はそのことをギリシア人への手紙3章に書いている。

1. パウロはすべてを持っていた。彼はヘブライ人の中のヘブライ人であり、パリサイ人の中のパリサイ人であった。新進気鋭の宗教指導者の一人だった。よく訓練され、熱意にあふれ、義と律法に関して罪のない人物と考えられていた。
2. 彼は教会を迫害して回り、家々を回ってクリスチャンを引きずり出し、牢屋に放り込んだ。そしてある日、神がダマスコへの道で彼に出会い、彼の人生はために根本的に変えられた。かつて彼が大切にしていたものすべてを、彼は神の追求のために捨てたのだ。
3. しかし、私にとっては得であったものでも、キリストのためには損であった。しかし、わたしはまた、わたしの主キリスト・イエスを知ることのすばらしさのために、すべてのものを失ったとみなしている。

律法に由来する自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰によって神から与えられる義を持ち、キリストと、キリストの復活の力と、キリストの苦しみとの交わりとを知り、キリストの死に合わせるためである。しかし、私は、キリスト・イエスが私を掴んでくださったものを、私も掴もうとのである。兄弟たち、わたしは、自分のことを理解したとは思っていない。(フィリ3:7-14)

4. パウロはすべてを持っていたが、キリスト・イエスにある神の上なる召しを求めて、すべてを捨てた。パウロは、キリストのもとに来る前に得たものをすべて数え上げ、そのすべてをゴミ、不潔なダメなゴミとした。キリストを得るために、すべてを失うことを選んだのだ。そして、それは彼の人生における最良の決断だった。
5. 彼は過去を捨て、前へ前へと進み、ゴールに向かって。
6. パウロもモーセも、天国で待っている永遠の報酬に目を向けていた。そして、神と共にある永遠の価値を天秤にかけたとき、この地上にあるものは比較にならないほどであった。
7. 信仰によって、**モーセは永遠の報酬を見据えながら、キリストの咎をエジプトにあるすべての宝よりも尊いとした。**

C. 続けて、私たちが学ぶことのできるモーセの他の選択を見てみよう。27節と一緒に読もう。

## VII. ヘブル11:27;

- A. ファラオを恐れなかった彼の両親の信仰は、一族に受け継がれていたようだ。両親が王を恐れなかったように、モーセも王を恐れなかった。
- B. 信仰によって、モーセはエジプトを捨て、旅立った。信仰によってモーセはエジプトを捨てた。
  1. forsook」とは、何かから離れる、離れる、何かを放棄する、という意味である。信仰によってモーセはエジプトを捨てた。彼はすべてを捨てて、ミディアンへの砂漠に向かった。
  2. 神は私たちに同じことをするようにと呼びかけている。神を追い求めるためにこの世を捨てるようにと。
  3. イエスがこの地上を歩まれたとき、この世を捨て、イエスに従うよう弟子たちを召された。
    - a. ペテロとアンデレは、イエスに呼ばれたとき、漁網を置き去りにした。ヤコブとヨハネは、イエスに呼ばれたとき、漁船を置き去りにした。徴税人マタイについては、ルカによる福音書5章に、イエスが彼に従うようにと呼ばれた後、「彼はすべてを捨てて立ち上がり、イエスに従った。(ルカ5:28)。
    - b. イエスは弟子であることの代償について弟子たちに教え、あなたがたのうち、自分の持っているものをすべて捨てない者は、わたしの弟子になることはできない」とはっきりと言われた。(ルカ14:33)

C. キリストは私たちに、この世を捨てること、この世と、私たちが簡単に虜にするこの世のものをすべて捨て去ること、そしてキリストに従うことを求めておられる。これは、信仰によってエジプトを離れたモーセがしたことである。

- C. 彼はどのようにしてそうしたのだろうか? 27節の最後に、目に見えない方を見るように耐え忍んだとある。目に見えない方とは誰か? それは主である。
  1. 神は霊であり、私たちが見ることのできる物理的な形を持っていない。その威厳に満ちた神を見た者はいない。1テモテは、神を「近づきたい光の中に住まれ、だれも見ることがなく、見ることもできない」と表現している。(1テモテ6:16b)
  2. しかし、パウロはコロサイの信徒への手紙の中で、イエス・キリストは目に見えない神のかたちであり、すべての被造物の上にある長子であると語っている。(コロサイ1:15)
  3. モーセは主を見つめていた。エジプトを去るとき、主に集中していた。彼の目は主にいたからだ。
- D. ヘブル人への手紙の次の章では、著者が私同じようにするよう勧めていることが書かれている。私たちの信仰の創始者であり、完成者であるイエスに、私たちはどのように目を留めるべきなのか。(ヘブライ12:2a)
  1. 主に目を向けていると、この世の心配事や悩み事がすべて消え去るように思える。
  2. ペテロはこのことを知っている。彼は、ガリラヤ海で嵐の中、舟に乗っているときに主に目を留めた。
    - a. イエスは弟子たちを先に行かせ、自分はもう少し祈るために残った。弟子たちが海を渡って行くと、突然、大嵐が起こった。
    - b. イエスは夜の闇の中で弟子たちのところに来られ、弟子たちは最初、イエスは幽霊ではないかと恐れた。
    - c. しかし、イエスはすぐに彼らに話しかけられた! 恐れることはない。"と言われた。そして、ペテロは主を見つめながら、イエスに呼びかけ、言った。"主よ、もしあなたがしたら、水の上からあなたのもとに来るように、わたしに命じてください"。(マタイ14:27-28)。
    - d. イエスはされた。そしてペテロは舟から出て、水の上をイエスに向かって歩き始めた。驚いた!
    - e. しかし、風や波を見回し始め、イエスから目を離したとき、ペテロは海に沈み始め、すぐに「主よ、助けてください!」と叫んだ。
  3. これが、ペテロと彼が水の上を歩いたことから学ぶ教訓である。
    - a. 私たちがイエスから目を離し、私たちを取り巻く状況に目を向け始めるとき、周囲の反対や障害に目を向け始めるとき、私たちはくじけ始め、スリッパアップし始め、不信と落ち込みと幻滅へとスパイラルダウンし始める。

b. しかし、主に目を向けていると、すべての状況、すべての反対、すべての障害が視界から消えていくように思える。そして、主に目を向けているとき、私たちは次のようになる。

主が私たちを導いてくださることを信じて、信仰の一步を踏み出すことができる

。

E. 信仰によって、**モーセは目を向けながらエジプトを見捨てた**。そして私たちも同じことができる。神が私たちにこの世を見捨てるように呼びかけておられるように、信仰によって、私たちはイエスに目を向け続けながら、そうすることができるのだ。

F. あと2節、2つの選択肢から読み取ることができる。28節を見てみよう。

VIII. ヘブル11:28である；

A. エジプトを出発したモーセは、その後の40年間をメディアンの砂漠で暮らし、羊飼いになる方法を学んだ。

1. そしてある日、主は燃える柴を通してモーセに御自身を現された。
2. モーセにエジプトに戻るように指示し、イスラエルの子供たちをエジプトから脱出させると告げた。
3. モーセはパロに大胆に近づき、神の民を解放し、彼らが出て行って主を礼拝できるようにすることを要求した。
4. パロが心をかたくなにし、主の求めに応じようとしなかったとき、主は一連の災いをこの地に下して応えられた。
  - a. モーセは何度も何度もパロに、民を主への礼拝に行かせるよう求めた。ファラオは、ある時はその要求を拒否し、またある時は承認したが、ある種の自主的な制限を課しただけで、最終的には約束を破って民を行かせなかった。
  - b. そして10<sup>目</sup>、最後の災いがやってきた。
5. 出エジプト記11章と12章には、10<sup>目</sup>の災いと最後の災いが記されている。
  - a. 主はモーセのもとに來られ、第十の災い、そして最後の災いは、パロの家から野の獣に至るまで、すべての家の初子が死ぬ災いであると告げられた。すべての初子は一晩で死ぬ。
  - b. さて、神の最後の災いから免れるために、主はモーセに、民に子羊一匹を取り、月の14日の薄明かりの時に殺すように指示された。彼らはその夜、火であぶった子羊を食べることになる。
  - c. しかし、その前に、子羊の血の一部を取り、ヒソブの束を取って血に浸し、その血でまぐさと二本の門柱を打つのである。(出エジプト12:22a)。
  - d. 主は、まぐさと二本の門柱の上の血をご覧になると、戸の上を通られ、滅ぼす者があなたを打つために家に入って来るのを許されない。(出エジプト12:23)。

e. こうして、史上初の過越の祭りが始まり、信仰によって門柱や玄関のまぐさなどに血を塗ったすべての世帯が救われた。

6. 子羊の血を玄関の門柱と十字架の梁に塗るこの行為は、十字架の業を予表するものだった。イエスは、私たちの過越の小羊として、神の裁きと罪の罰(すでに述べたように、それは死である)から私たちを免れるために、ご自身の血を流されたのである。

7. 信仰によって、**モーセとイスラエルの民は、神の正しい裁きから自分たちの家族を守るために、過越の祭り**と血の注ぎを**守ることを選んだ**。

a. そして私たちも同じことができる。カルバリの十字架の上で完成したイエス・キリストの御業に信仰を置くとき、私たちも同じことができる。信仰による恵みによって子羊の血を心に塗るとき、私たちが神の正しい裁きを受けられるのだ。

B. では最後の節と最後のレッスンを見てみよう。29節を見て、この学びを終えよう。

IX. ヘブル11:29；

A. 最後の災いである第10の災いの後、ファラオはようやくエジプト人を解放することを決めたが、エジプト人を解放した後、再び考えを変え、軍隊を率いてイスラエル人を猛追し始めた。

B. 神はモーセを紅海のほとりに導かれたが、急ぎ足で近づいてくるパロの軍勢から逃れる術はなかった。そこで神はモーセに、手に持っていた杖を水の上に伸ばすように言われ、モーセに、水は彼らのために分かれ、乾いた陸地を歩いて海を渡ることができることと告げられた。

1. モーセとイスラエルの子供たちがしたことは、まさにそれだった。モーセは水の上に手を伸ばし、神はモーセと子供たちが乾いた土地を渡って逃げられるように、水を分けられた。出エジプト記14章にはこう書かれている。"それで、イスラエルの子らは乾いた地の海の中に入り、水は彼らの右手と左手の壁となった。"(出エジプト記14:22)。
2. 神がパロとその軍勢から民を救い出すために用いられた驚くべき奇跡だった。
3. 子供夜通し海を通り過ぎ、朝になると、神はモーセに、再び手を海の上に伸ばして、追いかけてくるパロの軍隊の上に落ちるようにと言われた。
4. モーセが手を海の上に伸ばしたことで、海は元の深さに戻り、エジプト人は打倒され、最終的にイスラエルの子供たちは解放されたのである。
5. その日、主はイスラエルをエジプト人の手から救われ、イスラエルはエジプト人が海辺で死んでいるのを見た。こうしてイスラエルは、主がエジプト人のために行われた偉大な業を見た。

人々は主を恐れ、主とその僕モーセを信じた。(出エジプト14:30-31)

6. 今朝、モーセの信仰生活から学ぶ教訓として、私が注目したいのはその点である。
7. 信仰によって、モーセはイスラエルの子どもたちを率いて紅海を渡り、乾いた土地に上陸させた。
8. モーセがした他のすべての選択と同じように、私たちも同じようなすることができる。他の人々が信仰の一步を踏み出し、最終的には自分自身のために主を信じるように導くような生き方をするために。アーメン? アーメン。祈ろう。

### C. 祈りのポイント

1. 子供たちを主と主のご計画に委ねる
2. 何よりもまず、主に愛された神の子であることを自覚することを選ぶ。
3. 罪の一時的な快楽よりも、一時的な苦難を選ぶことを厭わない。
4. キリストの責めを、この世のどんなものよりもはるかに偉大なものとして数えることを選ぶ
5. イエスに従い、イエスに目を向け続けるために、この世を捨てることを選ぶ
6. 神の正しい裁きを免れるためにキリストの流された血を受けることを選ぶ。
7. そして、たちの信仰によって他の人々を導き、彼らもまた主の子どもとなり、信仰の民となるようにする。